

目次

*会員に送付しているペーパー版の「学会ニュース」とは、内容が一部異なります

次回大会予告	1	お知らせ	
個人研究発表・ワークショップ募集について	1	(メールニュースについて / 会費支払いについて)	5
30周年記念大会特別企画について:		報告:韓国女性学会	5
大会シンポジウム・特別企画分科会趣旨説明	2	会員の著作紹介	5
30周年記念大会企画委員会報告・		研究会のお知らせ	5
企画委員ご紹介	3		
幹事会議事録(第4回、第5回)	4		

次回大会予告

会場:お茶の水女子大学 〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

連絡先:ジェンダー研究センター Tel.03-5978-5846 Fax.03-5978-5845

アクセス:都営バス(大塚駅2 丁目下車) / 地下鉄丸の内線(茗荷谷駅下車徒歩約5分) / 地下鉄有楽町線(護国寺駅下車徒歩約5分)

大会シンポジウム:ジェンダーの視点で読み解く「貧困の女性化」

大会日程:1日目 6月27日(土) 13:00 ~ 16:30(予定)

個人研究発表・ワークショップ、その後 総会、懇親会

2日目 6月28日(日) 9:30 ~ 12:00(予定)分科会

13:00 ~ 15:30 シンポジウム

保育の必要な方は、詳細は次号をご覧ください。

個人研究発表とワークショップ申し込み受付について

タイトルと発表の概要(200字程度)・発表時に使用する機材(機材は希望にそえない場合があります)を記載して、3月20日までに、ニューズレター担当の伊田久美子・青山薫まで、メールかファックスでお申し込みください。

伊田久美子 *****

青山薫 *****

ご注意:念のため、上記2名の両方にお送り願います。

「ワークショップ」は、参加者との共同作業でテーマを発展させていく取組みであり、個人報告とは性格の異なるものです。

個人研究発表は、共通テーマでパネル応募も可能です。人数は3人以上とします。各報告の発表時間については、公平な配分および質問の時間を十分とることに留意いただき、時間配分、司会者などを申込者で設定してください。今回は個人研究報告・ワークショップは1日目です。30

周年特別企画分科会が2日目に行われ、それぞれのテーマに即した報告も募集します。特別企画分科会での発表をご希望の場合は明記してください。また、通常の個人研究発表やワークショップで申し込みいただいた中から、テーマが適的な報告は特別企画分科会でご報告いただくようにお願いする場合があります。

30周年特別企画の詳細は次ページをご覧ください。

大学院生、非常勤講師等
への旅費補助について

ワークショップ、個人研究発表をされる方で、学生、院生、OD等、常勤職についておられない方には、学会より旅費の補助を行います。(総額10万円を人数と距離に応じて配分しますので、補助金学は未定です。)希望される方は、報告申込の際に、「旅費補助希望」と明記してください。

30周年特別企画について

今回は大会シンポジウムのテーマを「ジェンダーの視点で読み解く『貧困の女性化』」とし、関連する分科会を設定して、分科会での報告や議論をシンポジウムにつなげ、参加者全体で議論を共有することをめざしています。そのため例年とはちがって、通常の個人報告・ワークショップは第1日目に、第2日目の午前中に大会テーマ関連の特別企画分科会を行い、午後に大会シンポジウムを開催することになりました。

〈大会シンポジウム「ジェンダーの視点で読み解く『貧困の女性化』」趣旨説明〉

シンポジスト：赤石千衣子・栗田隆子・田中かず子
コーディネーター：西田みどり

今回のシンポジウムのテーマは「貧困の女性化」である。年末年始に派遣村がマスコミを賑わし、「貧困化」が全国的に広がっていることが確認されたが、女性にとっての「貧困化」は古くからある問題である。男性が一家の生計を担い女性は被扶養でよいという社会構造の中で、女性の賃金は低く抑えられてきたからだ。しかし、労働者派遣法の改正によって男性の間にも非正規雇用が広がり、企業がその便利な働き方を活用したために派遣村のような事態が生じたわけで、事が男性に及ぶにいたってはじめてマスコミは社会問題として大きく取り上げた。ところが実際に派遣村に足を運ぶと女性の数はたいへん少なく、女性の貧困はますます見えにくくなっているように思われる。

そうした状況をふまえて、シンポジウムでは、女性の貧困を見えるものにするのと、社会構造という言葉にからめとられない現状の把握、そして女性の生き方のオ

ルタナティブを何らかの形で提示することを課題に、3人のシンポジストをお招きする。

しんぐるまざあず・ふぉーらむで長くシングルマザーの現場の声に耳を傾けてこられた赤石千衣子氏、『フリーターズフリー』の栗田隆子氏、国際基督教大学教員の田中かず子氏である。赤石氏と栗田氏には、当事者との出会いから見えてくる彼女たちの抱える困難とその解決の道筋について提示していただき、田中氏には研究者の立場から研究と運動の協働及び女性ユニオンについてお話しいただくことで、上記の課題に迫っていきたいと考えている。

同時にフロアーからもご発言いただき、それぞれの立場で活躍しておられる方たちの意見と混ぜ合わせることで、さらに具体的な生き方を見出せることを期待している。
(西田みどり)

特別企画分科会について：報告を募集します。

「ジェンダーの視点で読み解く『貧困の女性化』」という大会シンポジウムのテーマに即して、いくつかの分科会を構成する予定です。以下のようなサブ・テーマでの報告を募集します。応募先は1頁に出ている個人研究報告・ワークショップと同じです。数が多い場合は1日目の個人報告に回っていただく可能性もあります。なお、個人研究報告・ワークショップと、特別企画分科会報告を重複して応募していただくことはできませんので、ご了承ください。

反貧困運動におけるジェンダー問題／労働における貧困とジェンダー／家族と貧困／教育格差とジェンダー／フェミニズムから考える環境危機／高学歴ワーキングプアとジェンダー、など

30周年記念大会企画委員会報告・ 企画委員の紹介

木村涼子(代表幹事)

今年(2009年)6月の次回大会は、1979年に日本女性学会が設立されてから30周年の記念大会となります。15期幹事会では、節目の年にあたり、設立の趣旨における「既成の学会の慣習にとらわれぬさまざまな立場の人の参加」「参加者による民主的、主体的な運営」の一層の進展をめざしたいと考えました。そのための新しい試みとして、今回取り組んだのが企画委員の募集で

した。会員のみなさまからのご意見をひろく取り入れた記念大会にするために、2008年9月発行のニューズレター114号において、「記念大会の内容やプログラムの作成に積極的に参加し、幹事とともに検討して下さる」企画委員を募りました。幸いなことに、期限までに5名の学会員の方々からご応募いただき、企画委員となることができました。

その後、2008年10月4日に第一回企画委員会(於：立教女学院短期大学)、2008年11月15日に第二回企画委員会(於：東京ウィメンズプラザ)、2008年12月28日に第三回企画委員会(於：ピープルズプラン研究所)

と、短期間に3度にもわたって企画委員会を開催してきました。そのつど、企画委員の方々には大阪や東北からお集まりいただき、幹事とともに活発な議論を行っていただきました。その結果練り上げられたものが、今回のニューズレターでご案内している、テーマ別分科会や大会シンポジウム企画です。

募集に応じて自ら手を挙げてくださった会員の方々と一緒に、それぞれがほとんど初対面という新鮮さの中で大会企画をつくりあげるということは、刺激的でユニークなプロセスとなりました。一方で、幹事会として初めての試みであったため、その途上で不手際や試行錯誤があったことについても、率直にご報告申し上げておきたいと思います。いろいろな「山」を乗り越えてきたと思いますが、その一つは、担当幹事と企画委員からなる企画委員会と幹事会のどちらが最終決定の責任を持つか、という問題でした。問題提起を頂戴して、不透明であった部分をあらためて議論した結果、企画委員会に決定権があることを確認し、幹事会は決定された案の実現に向けて全面的なサポートをおこなうという原則を確認しました。「右往左往」しながらではありますが、こうした議論そのものが、民主的な学会運営の実現につながっていくと考えます。企画委員の方々にご迷惑をおかけした場面が多々ありましたが、その都度ご寛恕いただきました。この場をかりて、お礼申し上げます。

〈企画委員のご紹介〉(アイウエオ順)

今回企画委員としてご尽力いただいているのは、下記の5人の方々です。大会企画を担うにあたっての「ひとこと」をお寄せいただきました。

●伊藤淑子さん(大正大学教員)

日ごろ接している学生たちから、年々女性学に対する興味関心が薄れていくことに危機感を抱いています。ルサンチマンから出発するジェンダー意識を彼らと共有することがなかなかできないのですが、現実はまだまだ女性学の成果を必要としています。この機会に、新しい女性学の視点を吸収して、私自身もパワーアップし、学生たちにも有益な働きかけをしたいと思います。

●井上恵子さん(早稲田大学ジェンダー研究所客員研究員)

大会にて「学」や「運動」を担った方々の意気込みに触れ、現在の立ち位置を確認し、新たな地平を拓くために微力ながらつとめたいと思います。新米委員です。どうぞよろしく願います

●亀井あかねさん(東北工業大学教員)

シンポジウムの企画・運営に関しましては、小規模から大規模まで経験があります。そうした経験を生かし、30周年記念大会をつくりあげる作業に参加したいと思えます。

●西田みどりさん(芝浦工業大学非常勤講師)

人文系学会の社会に対するメッセージ力が低下しているような気がします。そんな中で、当事者と研究者が連携して女性の生き方のオルタナティブを探る企画を実現することで一石を投じることができればと考えています。

●深江誠子さん(平安女学院大学教員)

これまで、会費だけの学会員だったのですが、2010年3月で定年退職です。だから、今まで関わってこれなかったお詫びと30周年記念の行事なので面白い企画が出来るのではと思ひ応募しました。

幹事会議事録(第4回、第5回)

内部情報につきウェブ非公開

お知らせ

■ メールニュースについて

メールニュースを配信するたびに、何通か戻ってきます。アドレスを変更された方は、速やかにお届け願います。また、お申し込みされているのに届いていない方がおられましたら、ご連絡願います。

メールニュースは学会員のみなさまに有用な情報を不定期にお届けしています。是非ご登録ください。希望者は担当者までお申し込みください。

メールニュース担当:三井
(*****)

■ 【重要】会費の支払いに関するお願い

学会の財政状況を改善するために、幹事会では昨年10月より会費の改訂に関する議論を進めてきました。多様な方々から構成されている本学会の特徴を考慮した結果、所得に応じて会費を設定するスライド制を幹事会案として、2009年の総会時に提出することになりました。総会で会費の改訂がなされるまで、来年度の会費は振り込まないようにしてください。よろしくお願いたします。(幹事会)

報告

韓国女性学会に参加して

渋谷典子

ソウルの西河大学で2008年11月15日に行われた韓国女性学会では、新自由主義(Neo liberalism)を共通キーワードとして特別部会(シンポジウム)が開催されました。

まず、パネリストとしてお招きを受けた上野千鶴子さんが「Gender Equality in the Neoliberalist Reform in Japan」と題して、バックラッシュとネオリベの関係性に触れながら日本の状況をスピーチ。そして、Cho Han Haejoang さん(延世大学)が「South Korea's Neoliberal Patriarchal Turn: From Liberated Women to Desperate Mothers」をテーマに、韓国の女性たちの現状と変化について、政治・経済・文化など多様な方面からのアプローチで報告。最後に、HyeKyung Lee さん(延世大学)が「Gender in the Post-Neoliberal Welfare State Paradigm」と題して福祉国家批判と再編について、韓国の実情をふまえての発表がありました。

新自由主義という世界全体の潮流に巻き込まれ、日本と韓国…二つの国の状況はあまりにも似ていて抱える問題も同様…と、納得して帰国しました。

さて、これから！ネオリベやバックラッシュといった複雑な社会課題に立ち向かうためには、日本と韓国…お互いの知恵や経験を共有して戦略を練ることが重要…そのときまでに、じっくり課題整理をしておきたいと思っています。

会員の著書紹介

- ・ 金井淑子『異なっている社会を 女性学/ジェンダー研究の視座』明石書店 2008年2月 2415円
- ・ 東京女子大学女性学研究所 鳥越成代編『女性と美の比較文化』勁草書房 2008年3月 2310円
- ・ 伊田広行『「まだ結婚しないの？」に答える理論武装』光文社新書、2008年7月 840円+税
- ・ 杉田聡『AV神話—アダルトビデオをまねてはいけない』大月書店 2008年7月 1785円
- ・ 尾形明子・長谷川啓編『老いの愉楽—「老人文学」の魅力』東京堂出版 2008年9月 2600円+税
- ・ 京都大学女性研究者支援センター編『京都大学男女共同参画への挑戦』明石書店 2008年10月 3000円+税
- ・ 中道仁美編著『女性から見る日本の漁業と漁村』農林統計出版 2008年11月 2100円
- ・ 木村涼子・古久保さくら編著『ジェンダーで考える教育の現在—フェミニズム教育学をめざして』解放出版社 2008年12月 2000円+税
- ・ 女性ライフサイクル研究所『世代を超えて受け継ぐもの—家族、コミュニティ、社会』1000円+税 三学出版 2008年
- ・ 青山薫・石原みき子・松本真紀子編『もうひとつのノーベル賞—平和をつむぐ1000人の女たち』金曜日 2008年12月 8000円+税
- ・ Kaoru Aoyama, *Thai Migrant Sex Workers from Modernisation to Globalisation*, Palgrave/Macmillan, Feb 2009, 50 GBP/74.95 USD (hardcover)

研究会のお知らせ

ジェンダーの視点で読み解く「貧困の女性化」

シンポジストをお迎えして、大会シンポジウムの準備研究会を開催します。
どなたでも参加できます。

3月22日(日)11:00～13:00

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター(アクセスは以下をご覧ください。)

http://www.igs.ocha.ac.jp/igs/IGS_access/#mapC

お問合せ先: 伊田(大会シンポジウム担当)

会員主催の研究会募集のお知らせ(幹事会)

日本女性学会は会員主催の研究会に対し以下の応募要件にしたがって補助金助成をおこなっています。

〈応募要件〉

- 研究会の趣旨が女性学会の趣旨に適っているもの。
- 少なくとも会員に対して、公開の研究会であること。
- 研究会のタイトル、趣旨、企画者(会員個人・会員を含むグループ)、開催場所、開催日時、研究会のプログラム、全体の経費予算と補助希望額(2万円以内です)が決定していること。なお、未決定部分は少ないほど良いのですが、場所・プログラム・経費については予定＝未決定の部分を含んでいても結構です。
- 学会のニューズレター・ホームページに載せる「研究会のお知らせ」の原稿(25字×20行前後)があること。研究会の問い合わせ先を明記すること。

- 研究会終了後に、研究会実施の報告文を学会のニューズレターとホームページに書いていただきます(研究会補助費は、その原稿提出後に入金いたします。)
- 学会総会での会計報告に必要なため、支出金リストと、総額での企画者による領収書
- 申し込みは、広報期間確保のために、原則として開催の3カ月前までに、研究会担当幹事まで、お願いいたします。詳細のお問い合わせも、研究会担当幹事まで。

研究会担当: 柚木、海妻

連絡先: *****

お知らせ

「お知らせ」欄は幹事会および会員等からの公共性の高い情報を掲載します。

掲載希望はニューズレター担当者までご連絡ください。

ニューズレター担当

伊田久美子: *****

青山薫: *****

会員の著書紹介

以下のルールで会員のみなさまの著作を紹介します。掲載ご希望の方は、ニューズレター担当者までご連絡ください。

- 会員が執筆・編集している単行本(分担執筆含む、雑誌をのぞく)
- 1年以内の発行物
- ご本人の申し出があったもの
- 寄贈は条件としない

ニューズレター担当

伊田久美子: *****

青山薫: *****